

国語Ⅰ（平成二十九年年度）

（一） 監督の先生の開始の合図があるまで問題冊子の表紙を上にして、静かに待ちなさい。

（二） 開始の合図で、解答用紙の所定の欄に受験番号・氏名を記入しなさい。

（三） この問題冊子は一ページから六ページ、十一ページから十六ページまでです。

七ページから十ページまでは解答用紙です。

（四） 落丁及び印刷の不鮮明なものがある場合には、監督の先生に申し出て交換して下さい。

〔解答用紙記入上の注意〕

○文字は楷書で丁寧に書くこと。

○特に漢字の書き取りは、トメ・ハネにも注意すること。

○字数に制限がある問いに対しては、その指示をよく確認すること。

〔一〕 次の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- ① 新入生をカンゲイする。
- ② ケンヤクしてお金を貯める。
- ③ 子孫のハンエイを願う。
- ④ 僕は元来怠け者です。
- ⑤ 暑さを避けて木陰で憩う。

〔二〕 次の文章を読み、後の問いに答えなさい。

ペスト流行の終焉と同時にヨーロッパ近代が幕を開けた。それは、やがて世界中の各地域が近代世界システムという名の分業体制に組み込まれていく前触れでもあった。交通や通信の発達によって、諸地域間の分業体制が①され、②され、③されていく「世界の一体化」の始まりである。この動きは、大航海時代の一六世紀以降本格化し、現在もお進行中であるとされている。

分業体制は、中央（中心）と周辺の二つの地域、④、中央と半周辺と周辺の三つの地域の間で成立する。中央から周辺へ工業製品が移送され、周辺からは原材料や食料が中央へ運ばれる。その結果、中央に位置する国では集権化が促され、周辺国は「低開発」のまま放置される。余剰利潤は中央に集中するが、統一的政治機構が存在しないため、両者の間の不均衡が是正されることはない。アメリカの社会歴史学者イマニエル・ウォーラステインは、こうした分業体制こそが近代世界システムであると言った。この考え方によれば、「低開発」とは、分業体制（近代世界システム）が生み出した歴史的産物ということになる。⑤この考え方は、それまで「低開発」を単に発展の遅れと考えていた人々に衝撃を与えた。

コロンブスの新大陸再発見以降、⑥Ⅰとしての欧米と⑦Ⅱとしての新世界やアフリカといった構造をとりながら、まず新世界が、次いでアフリカが、そしてアジアがこの分業体制のなかに組み込まれていった。その結果、周辺の経済余剰は中央へ移送され、周辺の低開発化が固定されることになった。

二〇〇三年から〇四年にかけて、ハイチに暮らしたことがある。首都ポルト・プリンスにあるカボジ肉腫・日和見感染症研究所でエイズの疫学研究を行っていた。当時のハイチは——現在でもそうだが——失業率が七〇パーセントを超え、国民の三分の二が、一日二米ドル以下という貧困生活を送っていた。首都の路上には職のない人々が溢れていた。そんなハイチを語る言葉がある。「西半球の最貧国」「崩れ行く国」——。

「山の向こうは⑧A」というのは、そんなハイチの終りなき苦難を表すことわざだ。

「ハイチはどうして、こうも貧しいのでしょうか」当時勤務していた研究所の同僚に訊いたことがある。同僚の一人は「⑨ハイチは世界史のなかで翻弄され続けてきた。一八〇四年の独立以降、ハイチは⑩B子供のような存在だった。そんなハイチに、国際社会が救いの手を差し伸べることはなかった。親を失った子供の多くがそうであるように、ハイチも苦難の歴史を歩むことになったのです」と答えた。その言葉に、植民地独立のための対価として支払った多額の賠償金を思い出した。賠償金は、当時の金額で一億五〇〇〇万フラン（六〇〇〇万ドル）にも上った。ハイチはそれを九七年の年月をかけて払った。

当時の私は、それがハイチの貧しさの原因だと考えていた。⑪②今になって考えると、原因はもっと深いところにあったのかもしれないと思う。

植民地時代のハイチは、フランス領サントマングと呼ばれた。世界の砂糖の四割を生産し、砂糖以外にもコーヒーや藍、カカオの生産を行う豊かな実りをもたらす植民地だった。そんなハイチがもたらす富の多くは、しかし、⑬近代世界システムのなかで中央に位置するフランスに移送され、それがフランスを豊かにすると同時にハイチを貧しい状態のまま固定する役割を果たした。その構図を支え

たのが、大西洋を挟んで行われた三角貿易であった。アフリカから「黒い積み荷」として奴隷がハイチへ運ばれ、ハイチから「C 積み荷」として砂糖がヨーロッパへ移送された。その三角貿易からは、膨大な利益が生み出された。

4 旧世界と新世界の遭遇は、カリブ海に位置するエスパニョーラ島で起こった。

現在のハイチとドミニカ共和国があるこの島をコロンブスが発見したのは、一四九二年のことだった。当時のハイチには、先住民であるタイノ・アラクワ族約五〇万人が暮らしていた。そこへ、ヨーロッパ人によって天然痘が持ち込まれた。流行を経験したことがなく、免疫をもたない先住民たちはひとたまりもなかった。人口は三分の一以下にまで減少した。天然痘に続いて麻疹が流行し、ジフテリアやおたふく風邪がそれに続いた。つぎつぎと現れる感染症に、タイノ・アラクワ族の人々は抵抗する力を失った。

遺跡から発掘される土器や石器を除けば、現在のハイチに彼らの存在を伝えるものはない。ヨーロッパ人によって持ち込まれた感染症が、タイノ・アラクワ族の生活を徹底的に破壊したのである。

タイノ・アラクワ族の絶滅は、奴隷貿易の始まりを告げる鐘の音となった。奴隷たちの生活は、今では想像できないほど過酷なものであったという。5 ハイチに暮らすすべての黒人が二〇年で入れ替わった。③、一六〇〇年代後半にわずかに二〇〇〇人であった黒人人口は、一〇〇年後の独立時には五〇万人に達した。いかに多くの奴隷がハイチに運ばれたか、この数字が物語る。

当時、奴隷たちの故郷である西アフリカでは、マラリアが6 猖獗を極めていた。被害の大きさを、その地域は後に「白人の墓場」と呼ばれることになる。マラリアは奴隷貿易とともにハイチに持ち込まれた。持ち込まれたのは、マラリアだけではなかった。おそらく、病気を媒介するネッタイシマカとともに、黄熱やデング熱も持ち込まれた。

現在のハイチは、こうした数々の7 歴史的所産を引き継いでいる。貧困は、現在でも感染症流行の土壌を提供し続けている。エイズや結核の流行は止まるところを知らない。多剤耐性結核や薬剤耐性ウイルスは大きな社会問題となっている。長くハイチで結核対策に従事してきた医師で人類学者でもあるハーバード大学のポール・フアーマーは、ハイチの結核を「貧困の病」だという。

(山本太郎「感染症と文明」岩波書店)

問1 空欄1・2・3に入る言葉の組み合わせとして最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 1 「発見」・2 「伝達」・3 「放置」
- イ 1 「形成」・2 「固定」・3 「再編」
- ウ 1 「発明」・2 「伝播」・3 「流用」
- エ 1 「考案」・2 「奨励」・3 「信用」
- オ 1 「非難」・2 「容認」・3 「撲滅」

問2 空欄I・IIにあてはまる言葉をそれぞれ本文中より二字で抜き出しなさい。

問3 空欄A～Cにあてはまる言葉として最も適当なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

- A ア 夢の国 イ 晴れだろう ウ 未開の地 エ 楽天地 オ また山だ
- B ア 両親を失った イ 勝手気ままな ウ 聞き分けのない
- エ 兄弟のいない オ 教育されていない

C ア 旨い イ 甘い ウ 白い エ 高い オ 赤い

問4 空欄①②③にあてはまる言葉として最も適当なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア ところで イ しかし ウ あるいは エ にもかかわらず オ だから

問5 傍線6「猖獗^{しょうけつ}を極めていた」7「歴史的所産」の本文中の意味として最も適当なものを次からそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

6「猖獗を極めていた」

ア 病気の勢いがさかんなこと。
イ 病気の流行が始まったこと。
ウ 病気が普遍的であること。
エ 病気が忌み嫌われていること。
オ 病気への対策が放置されていること。

7「歴史的所産」

ア 事実だけを正しく伝えているもの。
イ 後世の人々に伝えていくべきもの。
ウ 歴史の中で忘れてはならないもの。
エ 歴史の流れの中で生み出されたもの。
オ 客観的な視点で描かれたもの。

問6 傍線1「この考え方は、それまで『低開発』を単に発展の遅れと考えていた人々に衝撃を与えた」理由として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「低開発」地域を発展させるためには、これまで以上に西欧諸国が経済的援助を行わなければならないから。
イ 「低開発」地域がそうだった責任を、近代ヨーロッパ諸国が負わなければならないわけではないことになるから。
ウ 「分業体制」の実施地域を、周辺国からヨーロッパ諸国に移動させなければならないことになるから。
エ 周辺国でもヨーロッパ諸国でも、人間の力でできることにそう違いはないことを思い知らされたから。
オ この考え方によると、「近代世界システム」が機能し続ける限り「低開発」地域は発展することがないから。

問7 傍線2「ハイチは世界史のなかで翻弄され続けてきた」の説明として最も適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 「世界史」とは教室の中で語られるものであって、子供達にハイチの実際の苦難はなかなか理解されない、ということ。

イ 「世界史」とは欧米諸国の立場から見た世界の流れであって、ハイチはそういった諸国に
いようにされてきた、ということ。

ウ 「世界史」とは言葉によって記されたものであって、ハイチの現実の姿を伝えるものでは
ない、ということ。

エ 「世界史」とはその国々の主観によって変化するものであって、どの国もハイチのことを
考えてはくれなかった、ということ。

オ 「世界史」とは所詮もう過ぎてしまったことであって、もはやハイチを救う手立ては残さ
れていない、ということ。

問8 傍線3「近代世界システムのなかで中央に位置するフランス」の説明として最も適当なものを
次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 当時のフランスは、政治的にも文化的にも地理的にも近代ヨーロッパの中心に君臨していた
ということ。

イ 当時のフランスには、世界中の富を自国に集める近代的なシステムが確立されていたという
こと。

ウ 当時のヨーロッパ諸国の経済は完全にハイチに依存しており、それなくしてフランスの発展
は起こりえなかったということ。

エ 当時のフランスとハイチが「中央」と「周辺」の関係にあり、ハイチで生み出された富はす
べてフランスのものになったということ。

オ 当時のヨーロッパ諸国の中では、フランスだけが三角貿易による膨大な利益を得ることに成
功していたということ。

問9 傍線4「旧世界と新世界の遭遇」によって起きたことの説明として最も適当なものを次から一
つ選び、記号で答えなさい。

ア 大航海時代、ヨーロッパ人が未知の土地を発見し進出することで、それまでその地になかっ
た感染症が伝わり、免疫のない先住民が壊滅状態となった。

イ 大航海時代、ヨーロッパ人が未知の土地を発見し進出することで、それまでアフリカでとど
まっていた「周辺国」の領域が著しく拡大した。

ウ 大航海時代、ヨーロッパ人が未知の土地を発見し進出することで、奴隷貿易が本格的に始ま
り、多くの黒人が新大陸に送り込まれた。

エ 大航海時代、ヨーロッパ人が未知の土地を発見し進出することで、西欧・新世界それぞれの
感染症が相互に伝染し、地球規模の流行になった。

オ 大航海時代、ヨーロッパ人が未知の土地を発見し進出することで、ヨーロッパを中心とした
近代世界システムの構築が加速度的に早まった。

問10 傍線5「ハイチに暮らすすべての黒人が二〇年で入れ替わった」の説明として最も適当なも
のを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 二〇年の間に、それまでハイチにいた黒人はすべて奴隷として新大陸に送られ、新たに奴隷
となる黒人がアフリカから連れてこられたということ。

イ 二〇年の間に、それまでハイチにいた黒人はアフリカに送り返され、代わりの黒人が新たに
アフリカから連れてこられたということ。

ウ 二〇年の間に、それまでハイチにいた黒人はすべて死亡し、新たにアフリカから連れてこら
れた黒人だけになったということ。